

【要支援情報共有・防災マップ・災害弱者情報の共有】

要援護者台帳システム

●システム全体像

要援護者台帳システム

災害時に備えた要援護者の情報管理・支援プランの作成をサポートするシステムです。住民情報システム、介護保険システムと連動することで、要援護者情報として活用できます。

支援ランクや要援護者区分の設定ができ、複数項目を組み合わせることで容易に対象者を抽出できるため、迅速かつ的確な一覧の作成ができます。

支援ランク、要援護者区分、介護情報、自立度・障害者認定情報などをわかりやすく一覧で表示します。

▲要援護者情報画面

世帯区分や所在区分、家屋様式・形態等、より詳細な連絡先情報の確認が可能です。

▲医療情報画面

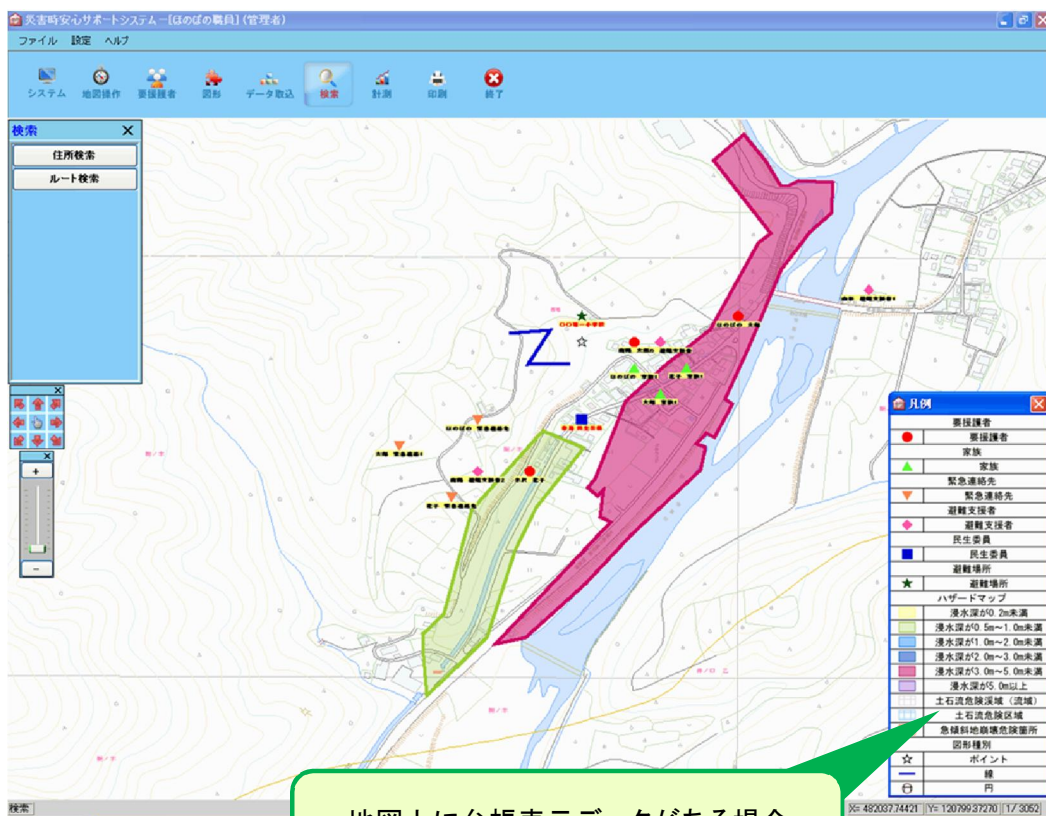
要援護者の医療情報・避難情報などを一覧で表示するため、災害時に必要な支援内容の管理が可能です。

▲避難情報画面

災害時安心サポートシステムでハザードマップを作成

要援護者台帳システムに登録した情報をGIS機能（地理情報システム）と連動させることでハザードマップの作成ができます。
 （災害時安心サポートシステムご導入時）

災害時安心サポートシステム（オプション）は要援護者の住所や避難場所のマッピングに対応するほか、津波や洪水などの災害が発生した際の避難経路や水没警告エリアの視覚化等に対応しています。



地図上に台帳表示データがある場合、凡例画面が表示されます。



地図上に表示されたハザードマップ範囲の要援護者のみを一覧で表示します。

